

第5回 丹波市図書館基本計画策定委員会 会議録（要旨）

- ◇日時：令和8年2月5日（木）
- ◇開会：午後1時30分
- ◇閉会：午後3時30分
- ◇会場：丹波市立中央図書館 視聴覚室
- ◇出席者：（委員長） 嶋田 学
（副委員長） 蔦木 伸一郎
（委員） 中澤 利恵 伏田 雅子 畑田 久祐 中岡 恵美 足立 真美
- ◇事務局：（教育部社会教育・文化財課）吉住 健吾 近藤 利明 高見 弘子
嶋崎 美紀 塚田 千晴
- ◇欠席者：（委員） 橋本 千英 由良 ゆかり 上山 未登利 増田 博 井上 直志

1. 開会

進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課 課長 吉住 健吾（以下、課長）

2. 報告事項

以下の進行は、委員長による。

（1）丹波市図書館基本計画・最終案について

- ①計画の修正経過と内容について
- ②パブリックコメントの結果について
- ③丹波市図書館基本計画・最終案について(計画の愛称について)

資料1

資料2

説明：図書館係 高見係長(以下、係長)

委員長

庁内会議で、図書館の目指す姿について追記するよう意見が出ている。それらを実現するためには運営ベースだけでは難しく、施設の増設・新設を含めた改修等を伴わなければならないと思うので、庁内会議で図書館の課題について議論され、前向きな意見が出ていることが良かったと感じた。職員の確保についても、計画的な図書館運営のために、司書のスキルや経営センスのレベル向上のために研修受講の機会を提供することが書かれており、素晴らしいと思う。計画策定のプロセスにおいて、市民の公募委員が参加する会議を5回開催し、ワークショップ等を開催し、市民が参加できる機会を設けているが、計画の中でもそのような取組を継続していくと記述していることが素晴らしいと感じた。

パブリックコメントでも幅広く意見をいただけた。待つだけでなく働きかけをした点が素晴らしいと思う。

副委員長

丹波市は公民館がないこともあり、市民にとって一番身近な社会教育施設が図書館だと思う。図書館を核として、市民に必要な学びの機会を、関係部署と連携しながら作ってあげれば良い。大変期待できる計画になったと思う。

委員

一般市民から見ると、図書館は本を読むところで、静かにしなければいけないというイメージがあり、敷居が高い。おはなし会も、こどもが騒ぐことを考えて、参加しづらく感じている親がいると思うので、目指す姿として「館内で会話ができ、賑わいが生まれている」と書いているのは良いと思った。一方で、めざす姿をどのように市民に周知していくかが課題。

課長

図書館協議会の議題で、図書館条例の施行規則の改正を提案する予定。規則改正ができれば、ホームページや館内の貼紙等で周知し、賑わいの生まれる取組をしていきたい。

委員

図書館の意義について市民にどのように周知していくかが課題。パブリックコメントや庁内会議での意見を見ていると、何年か前では考えられないほど意見が出ているので良いと思った。

委員

様々な会議での意見やパブリックコメントの意見をめざす姿に反映できていると思った。しかし、足を運んでもらうために、図書館で何ができるのかわからない人に、図書館に行くこんなことができる、と呼びかけられるようにめざす姿を具現化してほしいと思う。具体的な計画ができてからではなく、今できることをする必要がある。

係長

今まで図書館に足を運ぶことがなかった市民に来てもらえるきっかけになるよう、少しずつイベントを増やしたいと思っている。情報の発信についても力を入れていきたい。

副委員長

計画の2ページ「2.計画の位置づけと計画期間」の表に書かれている計画名を、第〇期、第〇次などを含めた正確な表記をするべき。

8ページ「(2)計画策定における市民参画の取組」に、1月25日に開催したパブコメミーティングについても記載してほしい。

29ページ以降の用語解説は、記載されている用語のいくつかは、教育振興基本計画等の

上位計画や生涯学習基本計画等の関連計画にもすでに登場している。表記をある程度統一すべき。例えば、AI は生涯学習基本計画に、ウェルビーイング、こども司書、こどもまんなか社会、図書館サポーター等は教育振興基本計画の用語集に記載されている。ICT、SNS についても他の計画に記載がある。

30 ページの社会教育、生涯学習の表現についても、用語解説でとどまっている。丹波市において社会教育、生涯学習がどのように位置づけられているのか、他の計画の文言も踏まえて書いた方が良いと思う。

社会教育士という単語についても、認知度がまだ低いので、用語集に加えた方が良いと思う。

委員

計画の愛称はどうやって決めるのか。

係長

委員の皆様で議論いただきたい。バブコメでも愛称についての意見が出ていた。

委員

図書館のキャラクターを作ることも計画に書いてある。

課長

具体的な方法は決めていないが、公募してキャラクターを決める予定。

係長

デザイン案を公募したり、図書館から案を何点か提示して投票してもらう方法がある。

委員

真庭市のキャラクターはどのように決めたのか。

係長

市内在住のデザイナーに依頼したと聞いている。リニューアル5周年の記念グッズを作る際にデザインをお願いしたのがきっかけで、数種類のポーズを書いてもらっている。その後、名前は公募で決めている。

委員長

丹波市には、地元在住のイラストレーターはいるのか。

委員

個人事業主のデザイナーの方がいる。

委員

何種類かの候補から投票してもらうのが良いと思う。

委員長

デザイナーにキャラクターのサンプルを何種類か依頼する予算はあるのか。

課長

現時点では調整できていないが、可能ではある。

委員長

キャラクターの名称については公募し、キャラクターデザインについては、図書館から何種類かの案を提示し、投票してもらうことで良いか。

委員

異議なし。

副委員長

計画の本誌は、最終的にはどうなるのか。教育振興基本計画では、ある程度デザイン化した冊子になっている。手に取ってもらうには、表紙に写真や分かりやすいキーワードを入れるなど、それはできるのではないか。

課長

コピー機で印刷するので写真が綺麗に映らない。メインはデータでの配信で、紙ベースの配布範囲は、生涯学習基本計画と同じ範囲で考えている。

副委員長

見やすくした A4 見開き裏表の概要版があれば良いと思う。5 年間あるので、綺麗に見せられるものが資料として配布できれば良い。図書館の取組が市民に伝わっていくからこそ、利用したり参画したりする市民が増えると思う。

課長

検討したい。

委員長

市の広報で計画策定の特集を組んでもらう方法も良いと思う。SNS 等、様々なチャンネルを持つことは大切だが、重要なのはイベントを含め実際の取組。実際に活動に参加してもらい、その中で、実は計画で決められたことに基づいて開催されていたという内実が広がっていくことが本質だと思う。計画を作ることも重要だが、お金を使うなら、そのような実体に使うほうが良いと思う。

副委員長

「市民に寄り添い、ともに学ぶ、つながる、つくるみんなの図書館」というキーワードを、図書館から発信する際は、印刷物や封筒に使ってほしいと思う。

課長

図書館からの郵便物に使う封筒にこのキーワードを入れて印刷依頼している最中である。

委員長

貸出レシートに文字を追加することはできるのか。

係長

確認する。

課長

先日の政策会議で、12 ページの年齢表記について、乳幼児期や小学生の年齢の区切りが曖昧という意見が出た。これを踏まえて、「年齢表記はあくまで参考として記載しています」といった注釈を入れてはどうかという意見があったが、どうか。

年齢表記がないと、例えば、16 歳から 18 歳の高校生でない層の表現が難しい。

係長

30 歳～60 歳代と 60 歳以上の区別についても、60 歳代は、働いている人、定年されている人と様々なので、緩やかに重複し、各々のライフステージに合うことを考えている。

委員

エリクソンの発達段階に合わせてはどうか。

係長

乳幼児期については、年齢表記を削除し、【乳幼児と保護者】として差し支えないか。

委員

問題ない。

小・中学生についても、年齢表記が必要ではないか。

委員長

高校生以上をどのように表現するかが課題。ユース世代、図書館的に言うとヤングアダルト世代。

係長

16歳～18歳という表記だけにするなら、説明文に、社会に出ている若者という表現をいれる必要がある。

副委員長

そういった文言を入れるならば、「～29歳まで」と年齢の幅を広げても良いのではないか。

委員長

この件については事務局に一任する。

委員

パブリックコメントの結果については、自分と同じような意見だったのが、公共図書館と学校図書館との連携を検討し、推進するという点。思いが伝わっていると感じた。

委員長

計画の愛称について、みんなの図書館というのは、こどもからお年寄りまで含めるといった包括性があり、いいと思った。

“みんなの”という言葉にさらに当事者性を含めた言葉にするならば、「あなたとわたしの図書館計画」も思いついた。

副委員長

より能動的に表現するならば、28ページの推進体制の「3.みんなで育てる図書館の役割とつながり」から、「みんなで育てる図書館プラン」も良いと思った。

委員

つながるという言葉は入れたい。「みんながつながる図書館計画」はどうか。

委員長

「みんなの図書館プラン」が良いかもしれない。

委員

端的で良いと思う。

委員長

「みんなの図書館プラン」で決定する。

3.その他

委員

今後、学校や地域と連携する中で、誰が何を担当するかを整備してもらおうと、市民側は参画しやすいと思うので、検討していただきたい。

委員長

丁寧なプロセスで策定を進めてくださったと思う。分館の利用状況も課題になると思うので、学校図書館と分館が連携できる取組ができれば良いと思う。

委員

真庭市立図書館を視察したことで、近隣市町の図書館に足を運ぶきっかけになった。いつも利用している山南図書館は、狭い館内で勉強する人もいれば、親子連れもいる。分館は住民センター内にあるので、勉強したい人は別で部屋を取って、そこで静かに利用できるようにする。そうすれば子どもが少し騒いでも気にならない。難しいかもしれないが、できれば良いと思う。

課長

期間を決めたいうえで、図書館として部屋を借りて利用してもらおうことはできると思う。曜日や時間を決めたり、夏休み期間に合わせて利用できるようにする。

委員長

夏休みだけでは少ない。例えば、会議等がない限り月水金は使えるなど、利用者のよりどころになれば良いと思う。

副委員長

柏原住民センターの図書館前は、開放された学習スペースのようにになっているが、経緯が

あつてのことなのか。

館長

自主的に学生たちが利用している状況で、誰でも使える共有スペースである。

委員長

より有効な活用方法について検討していただくことは可能か。

課長

住民センターを活用して自習室にできないか、検討する。

委員長

自習スペースや静かなスペースを別の部屋で作ることによって、図書館に賑わいのスペースができることが利点。

委員

どの年代も多様化している。学校でも、図書館は静かに勉強したい子や、なるべく他の子と関わりたいくない子の居場所にもなっている。図書館が話し合いの場になった時に、そういった子どもたちはどこに行けばいいのかと疑問に思った。

委員

図書館が必要だということが、市民や行政職員にまだまだ伝わっていない。普段から利用している人はうまく使っている。生活する人にとってのメリットを提示しなければならない。

委員

良い計画になったと思うが、これからどう実現していくかを考えていかなければならない。待っているだけでなく、こちらから本を持って外にでて行かなければいけない。図書館に関わったことがない人に、行ってみようと呼びかける方法を考えなくてはならない。

副委員長

パブリックコメントやパブコメミーティングでも出ていた意見だが、職員の体制や待遇が問題になってくると思う。計画を進めていく中で、市民の協力はもちろん大切だが、核となるのは職員。安定的な雇用と中長期的なスキルアップが原動力になると思う。図書館に関心のある市民の声は反映できていると思うので、これから持続的な運営をするためにどのような職員体制がいいのか、検討いただきたい。社会教育士など専門性をもった人々とも連

携しつつ、読み聞かせボランティアや図書館サポーターの活躍の場を広げて、図書館に関わるきっかけをつくってほしいと思う。

委員長

以上で、第5回図書館基本計画策定委員会を終了する。